



2025年3月期 決算説明資料

2025年5月26日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

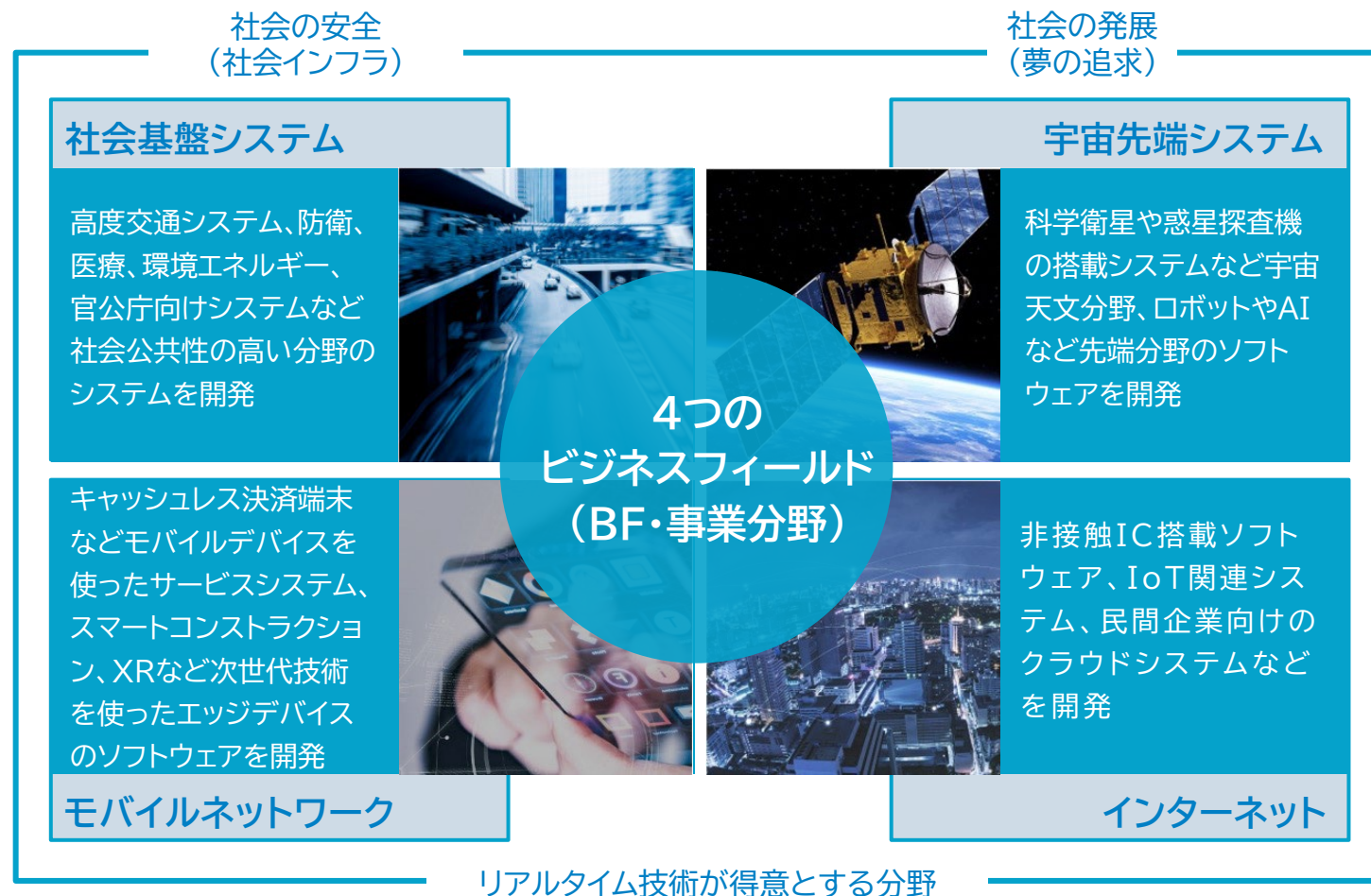
- 事業分野
- 2025年3月期 決算概要
- 2026年3月期 今期業績見通し
- 2026年3月期 重点テーマ

事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない
一流のソフトウェア会社となる

- 1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核として成長
- 「リアルタイム技術」が必要とされ、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野
- 社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野を開拓



持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としている。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していく。



E 環境



JQA-EM1216

2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得。以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいる。

S 社会

研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいる。

人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

健康経営

健康経営優良法人の認定取得。



G ガバナンス

コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視している。透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいる。

コンプライアンス

「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有している。

事業分野 | 社会基盤システム

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発。



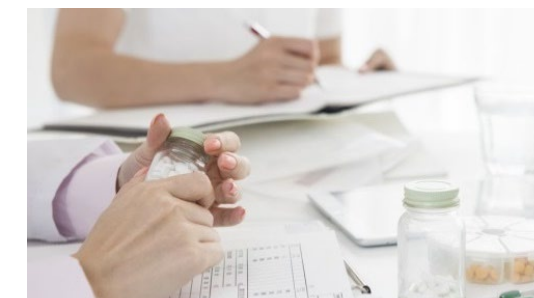
高度交通システム
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス
ロードサービス・緊急通報



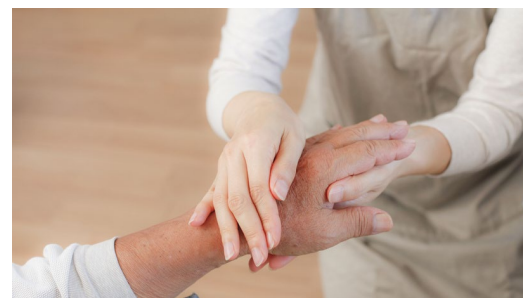
緊急医療支援システム



医薬品・医療機器
安全対策支援システム



防衛関連システム



ヘルスケア関連システム



官公庁向けシステム
家畜個体把握・各種統計・防災関連

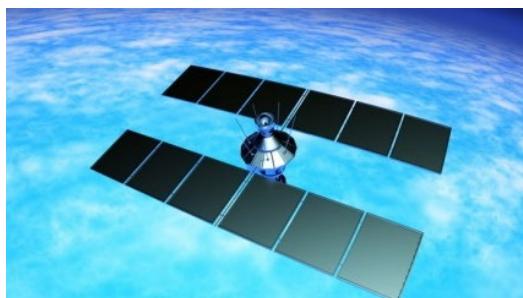


環境エネルギー
マネジメントシステム

事業分野 | 宇宙先端システム

人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発や、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発を行う。



衛星搭載システム

ひので、はやぶさ2など



スペースデブリ除去衛星

フライト制御ソフト開発



国際宇宙ステーション

「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム

すばる望遠鏡など



ロボット標準化技術

RTミドルウェア、ROS



車両自動走行



自動制御ソフトウェア

船舶、ドローン、トラクター



研究機関向けシステム

NICT、JAXA、大学など

事業分野 | モバイルネットワーク・インターネット

次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、スマートコンストラクション、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発。



モバイルデバイス搭載機能



非接触IC搭載ソフトウェア



キャッシュレス
モバイル決済端末



車載インフォテインメント
ソフトウェア



スマートコンストラクション



IoT
暑熱作業リスク管理システム



IoT
海中資源管理



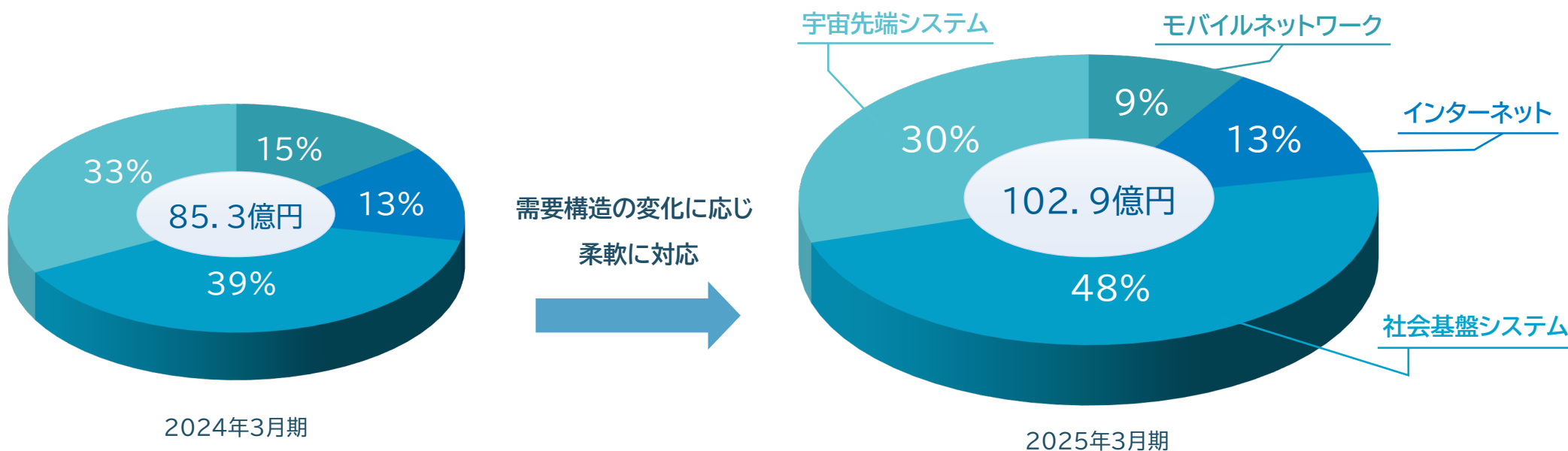
XR技術関連開発

2025年3月期

決算概要

事業環境

IT需要は全体的には概ね堅調



モバイルネットワークBF

スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少

インターネットBF

非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加したが、全体構成比では変動なし

社会基盤システムBF

環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発が大幅に増加

宇宙先端システムBF

車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が増加したが、全体構成比では減少

2025年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、
前期比で8期連続の増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	10,295	+20.6%	
営業利益	1,793	+22.2%	17.4%
経常利益	1,893	+22.3%	18.4%
当期純利益	1,344	+21.6%	

受注高、受注残高ともに過去最高、
受注高は前期比で10期連続の増加

	当期（百万円）	前期比
受注高	10,787	+2.3%
受注残高	6,261	+8.5%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

官公庁向けの開発が好調であったことに加え、
医療分野や防衛分野が大幅に増加するなど、需
要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高
となり、前期比で8期連続の増収増益となった。

受注高は過去最高となり、前期比で10期連続
の増加、受注残高も過去最高となった。

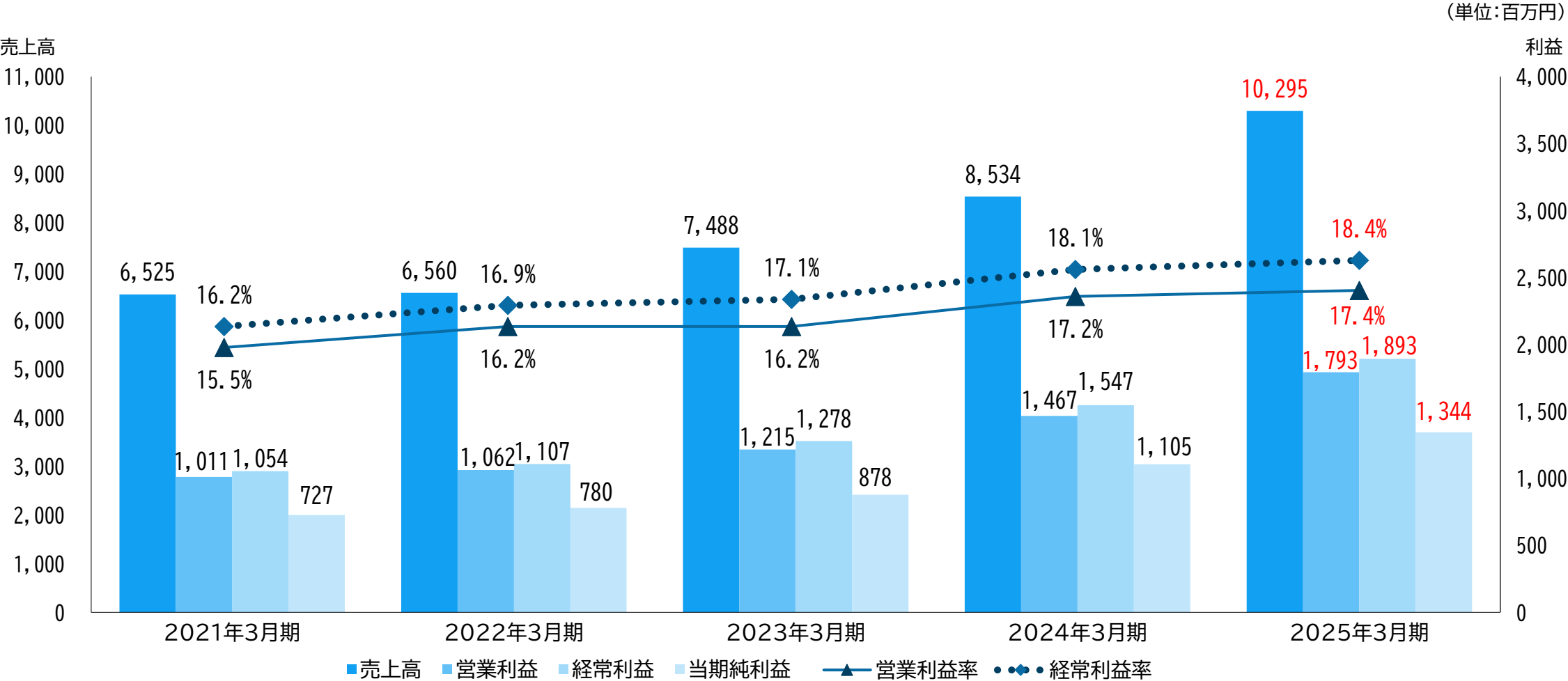
損益計算書

	2024年3月期 (百万円)	2025年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(2月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	8, 534	10, 295	120. 6	10, 100	101. 9
売上原価	5, 983	7, 224	120. 7	7, 070	102. 2
売上総利益	2, 550	3, 070	120. 4	3, 030	101. 3
販売管理費	1, 083	1, 277	117. 9	1, 250	102. 2
営業利益 (営業利益率)	1, 467 (17. 2%)	1, 793 (17. 4%)	122. 2	1, 780 (17. 6%)	100. 7
経常利益 (経常利益率)	1, 547 (18. 1%)	1, 893 (18. 4%)	122. 3	1, 880 (18. 6%)	100. 7
当期純利益	1, 105	1, 344	121. 6	1, 300	103. 4

- 売上原価** 外注費、仕入高が大幅に増加（外注費 37.6億円、前期比30.3%増／売上高外注比率36.6%、前期比2.7%増）
- 販売管理費** 新入社員の増加、ベースアップなどにより労務費が増加、研究開発費は151百万円で、前期比で50.4%増
- 営業外損益** 研究開発の補助金収入が増加（39百万円、前期比18.7%増）、受取出向料も増加（43百万円、前期比32.5%増）
- 当期純利益** 賃上げ促進税制の適用による税額控除で法人税等負担率が低下（法定実効税率30.62%に対し、法人税等負担率29.03%）

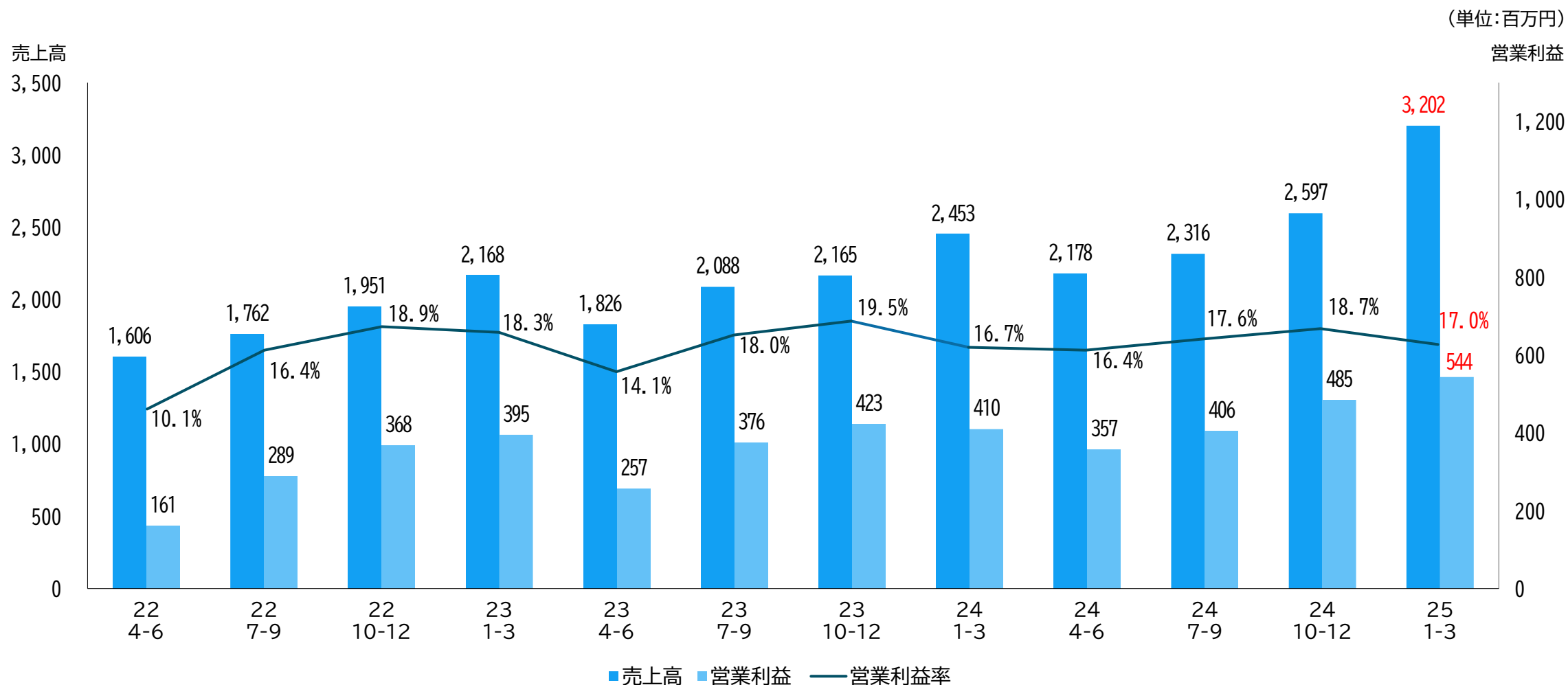
決算業績推移(過去5年)

8期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高



四半期業績推移(PL)

2021年度第3四半期から、14四半期連続の増収増益

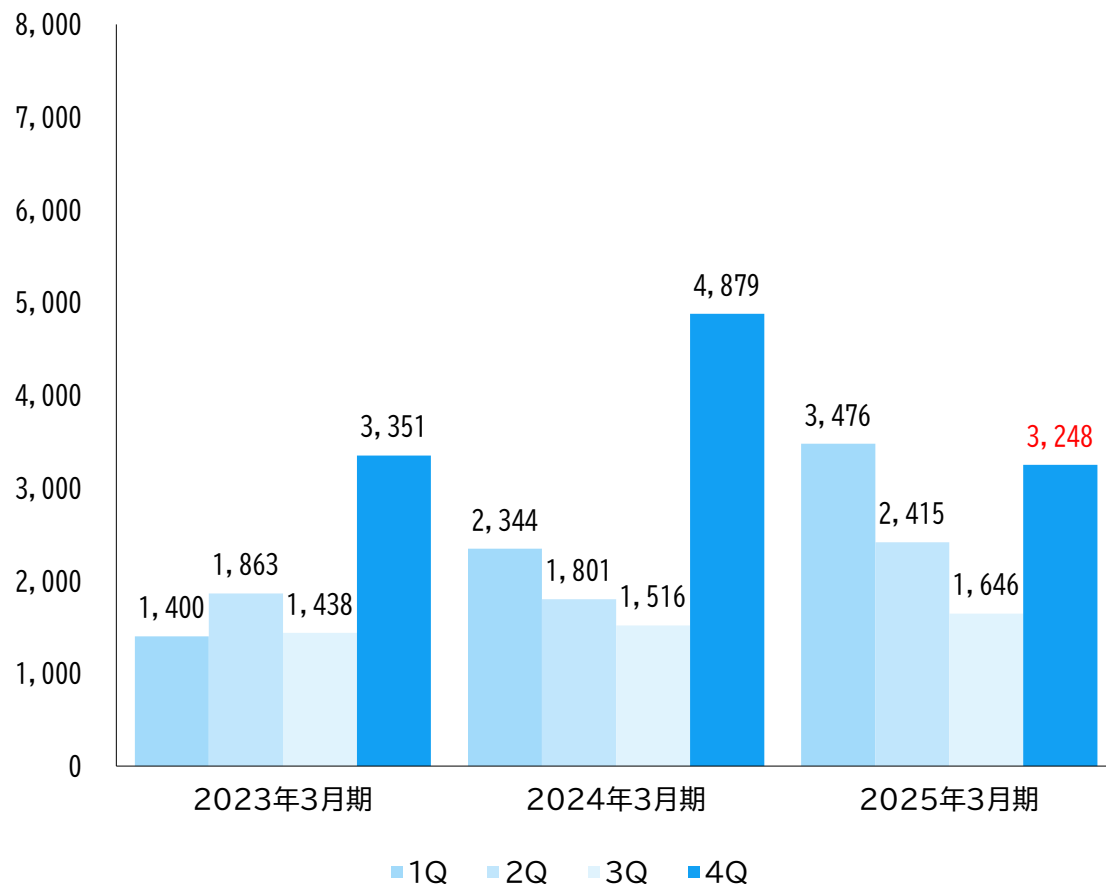


四半期業績推移(受注状況)

受注高は第4四半期を除き過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高

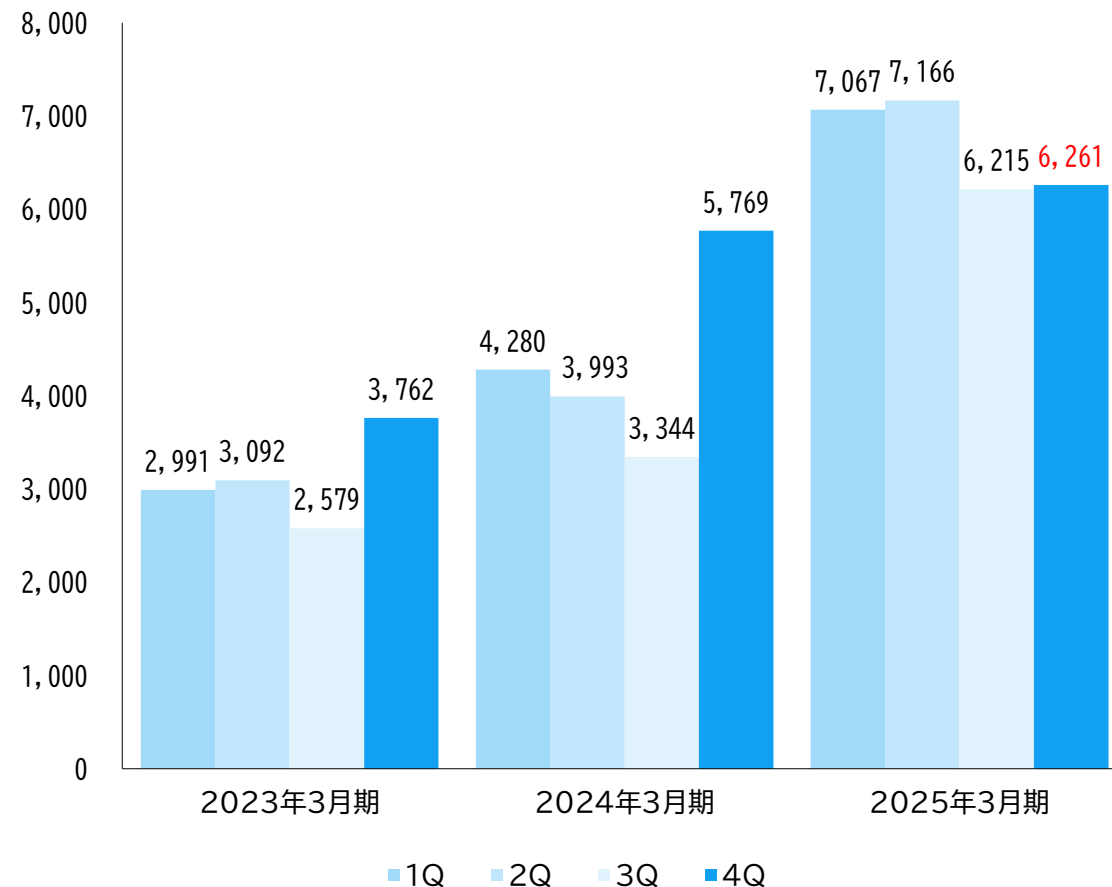
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



BF別の状況

社会基盤システムBF、インターネットBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期		2025年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	1, 248	14. 6	922	8. 9	73. 9
インターネット	1, 155	13. 5	1, 336	13. 0	115. 6
社会基盤システム	3, 325	39. 0	4, 972	48. 3	149. 5
宇宙先端システム	2, 804	32. 9	3, 064	29. 8	109. 2
合計	8, 534	100. 0	10, 295	100. 0	120. 6

- モバイルネットワークBFは、スマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調であるものの、XR(クロスリアリティ)サービス関連の開発が減少
- インターネットBFは、非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が引き続き好調であることに加え、医療分野や防衛分野の開発が大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が増加

B F 別受注状況

医療分野の大型長期案件の受注により、社会基盤システムBFの受注残高が大幅に増加

ビジネスフィールド	2024年3月期		2025年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1, 1 9 7	2 3 4	8 6 6	7 2. 4	1 7 8	7 6. 3
インターネット	1, 2 3 5	3 2 3	1, 4 4 2	1 1 6. 8	4 2 9	1 3 2. 9
社会基盤システム	5, 0 3 0	4, 3 2 3	5, 4 8 2	1 0 9. 0	4, 8 3 3	1 1 1. 8
宇宙先端システム	3, 0 7 7	8 8 8	2, 9 9 5	9 7. 3	8 1 9	9 2. 3
合計	1 0, 5 4 1	5, 7 6 9	1 0, 7 8 7	1 0 2. 3	6, 2 6 1	1 0 8. 5

※ 受注残高のうち、今期売上貢献分は4, 705百万円(前期比5. 9%増)、来期以降売上貢献分は1, 555百万円(前期比17. 3%増)

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)サービス関連の受注が減少
- インターネットBFは、非接触IC関連、民間企業向けのDX関連の受注が増加
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの受注が増加、また、医療分野や防衛分野の受注が大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発や宇宙ロボット関連の受注が増加

期末貸借対照表

	2024年3月末日(百万円)	2025年3月末日(百万円)	増 減(百万円)
流動資産	7, 7 8 5	9, 3 2 6	1, 5 4 0
固定資産	2, 3 2 3	2, 4 4 9	1 2 5
流動負債	1, 5 4 0	2, 2 8 1	7 4 1
固定負債	1 7 0	1 6 3	▲ 6
純資産	8, 3 9 8	9, 3 3 0	9 3 1
総資産	1 0, 1 0 8	1 1, 7 7 5	1, 6 6 6
自己資本比率	8 3. 1 %	7 9. 2 %	▲ 3. 9 %
流動比率	5 0 5. 5 %	4 0 8. 7 %	▲ 9 6. 8 %
固定比率	2 7. 7 %	2 6. 3 %	▲ 1. 4 %

流動資産 売上債権の増加などによる増加

固定資産 前払年金費用の増加、投資有価証券の取得などによる増加

流動負債 買掛金、未払金、未払法人税等の増加などによる増加

キャッシュ・フロー計算書

	2024年3月期 (百万円)	2025年3月期 (百万円)	増 減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3 8 4	▲ 2 5 0	▲ 6 3 4
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1 3 9	▲ 4 0	9 8
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3 5 2	▲ 4 4 5	▲ 9 2
現金及び同等物の増減額	▲ 1 0 8	▲ 7 3 6	▲ 6 2 8
現金及び同等物期末残高	2, 9 6 8	2, 2 3 1	▲ 7 3 6

- 営業キャッシュ・フロー

官公庁に対する売上債権の増加、棚卸資産の増加などによる支出増
- 投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の取得額が増加したが、償還もあり支出減
- 財務キャッシュ・フロー

配当金支払額の増加などによる支出増

2026年3月期

今期業績見通し

2026年3月期業績見通し

継続的な成長を目指し、売上高、利益ともに増加の計画

	2025年3月期実績(百万円)	2026年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	10,295	10,700	103.9
売上原価	7,224	7,467	103.4
売上総利益	3,070	3,233	105.3
販売管理費	1,277	1,393	109.1
営業利益 (営業利益率)	1,793 (17.4%)	1,840 (17.2%)	102.6
経常利益 (経常利益率)	1,893 (18.4%)	2,010 (18.8%)	106.1
当期純利益	1,344	1,395	103.8

売上高 前期と同様の需要環境を見込み、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

売上原価 社員数増加や、定期昇給に加え大幅なベースアップによる人件費の増加、仕入高の増加などにより、増加を見込む

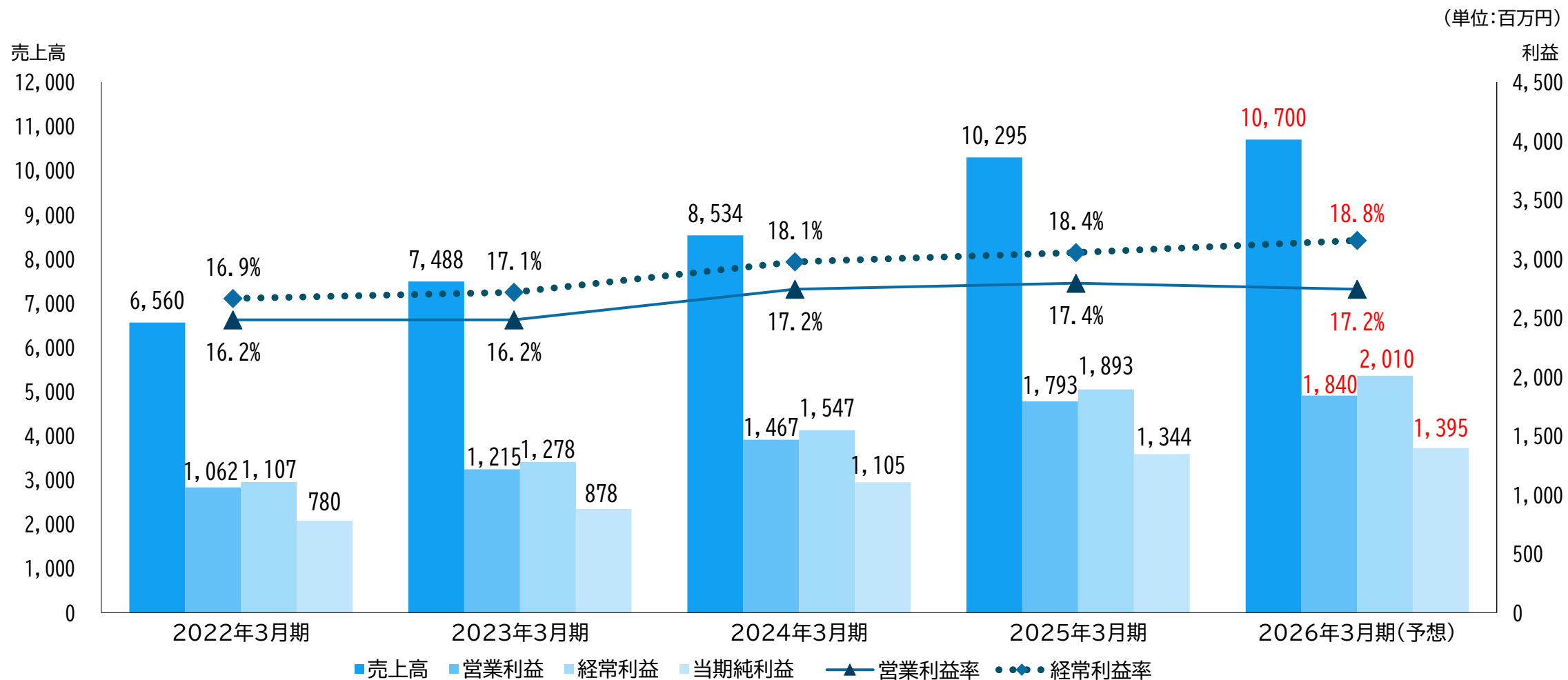
販売管理費 新入社員の増加などによる労務費の増加、研究開発の増加などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入の増加などにより、増加を見込む

当期純利益 前期は賃上げ促進税制の適用により増加したが、今期は税金費用を法定実効税率どおりで計算

通期業績の推移

9期連続の増収増益を目指す



2026年3月期BF別業績見通し

インターネットBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	前期と同様の環境が継続し、減少	
インターネット	非接触IC関連の開発が堅調であることに加え、民間企業向けのDX関連の開発が増加し、増加	
社会基盤システム	環境分野や福祉分野をはじめとした官公庁向けの開発が好調であることに加え、医療分野の大型案件や防衛分野の開発が増加し、増加	
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件や宇宙ロボット関連の開発が堅調であることに加え、国の研究機関向けの開発が増加し、増加	

2026年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。
2. 特に、AIや量子コンピュータ、エッジコンピューティング、デジタルツイン、ロボティクス、XR(クロスリアリティ)、BMI (Brain-machine Interface)などの研究に注力する。

「高付加価値化」

1. 最先端のリアルタイム技術に取組み、高単価、高付加価値化を目指す。
2. 研究開発・製品開発活動により得たニューエレメント(革新的技術、標準化技術、ソリューション製品、特許など知的財産権、新ビジネスモデルなど)を核として、主体的なビジネスを推進する。
3. サイバーレジリエントな環境と体制を整備する。

「人的資本投資」

1. AI、デザイン思考、データサイエンス、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化する。
2. ハードウェアベンダとの人材交流を進め、ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化する。

研究開発：量子コンピュータ

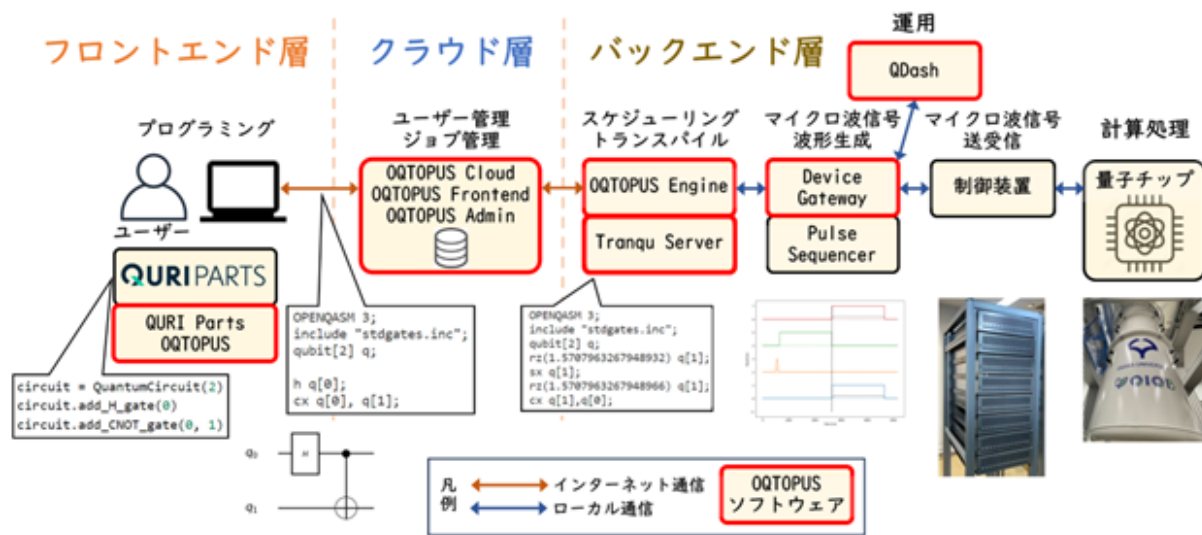
量子コンピュータは従来のコンピュータを凌駕する計算能力を期待されているが、その実用化には量子コンピュータを利用するための量子ソフトウェアが必要となる。当社は、大阪大学を中心とした共同研究チームの一員として量子ソフトウェアの研究開発を進めており、量子コンピュータを利用するためのクラウドソフトウェアの開発、画像処理への量子コンピューティングの応用などに取り組んでいる。

量子コンピュータ・クラウドサービス向けの世界最大規模の基本ソフトウェア「OQTOPUS」を開発

量子コンピュータの基本ソフトウェア「OQTOPUS」を開発し、オープンソースとして公開した。

「OQTOPUS」は量子コンピュータ・クラウドサービスに必要となる、環境構築から運用までを網羅する基本ソフトウェアを一括して提供する。開発した量子コンピュータをクラウド公開したい大学や研究機関、企業は「OQTOPUS」を利用することで、簡便にクラウドサービスをユーザーに提供することが可能となる。

量子コンピュータ開発の参入障壁を低減し、自由なカスタマイズも可能としたことで、量子コンピュータの技術革新を促進する。



「OQTOPUS」を利用した量子コンピュータ・クラウドサービスの全体像

Copyright © OSAKA UNIVERSITY. All Rights Reserved.

2025年3月24日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/news/news6692346571238969596.html>

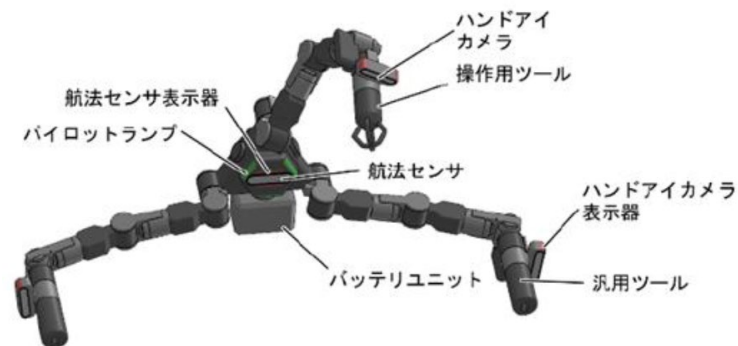
研究開発：宇宙×ロボット

パイロードの管理・運搬・操作ロボットシステム「PORTRS」ISS実証用システムの開発(JAXAの技術提案方式の調達案件)

「PORTRS」は、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟で動作する多肢ロボットを地上から遠隔操作することにより、実験サンプルなどの物品の搬送・操作や、船内の状態の確認・監視を自動化するためのシステムである。ISS船内の作業効率化や宇宙飛行士の作業軽減を目的とし、2024年3月にスタートした。

代表者：株式会社セック

共同提案者：株式会社浜野製作所/株式会社ウェルリサーチ/コニカミノルタ株式会社



RFP※提案時の多肢ロボット外観イメージ

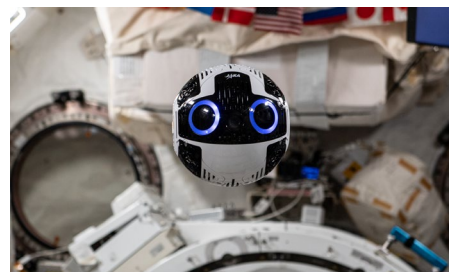
※JAXAの企画競争入札の技術提案方式(Request for Proposal方式)

2024年3月11日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news71932186239469261.html>

ISS船内ドローン「Int-Ball2」のソフトウェアを開発

「Int-Ball2」は、ISSでステーションで活動する宇宙飛行士を支援する、JAXAの船内ドローンである。当社は、JAXAからの委託を受け、「Int-Ball2」に内包されている各種ソフトウェアを統括するシステム統合ソフトウェア、軌道上の「Int-Ball2」から受信した遠隔監視データを可視化し、「Int-Ball2」を遠隔操作する地上運用支援システムの開発を担当した。



「きぼう」船内を航行するInt-Ball2
画像提供：JAXA/NASA

2023年6月20日 当社ニュースリリース：

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20230620507022/pdfFile.pdf

「きぼう」自動実験システム(GEMPAK)の開発 ロボット制御系開発(JAXAの技術提案方式の受託案件)

「GEMPAK」は、JAXAが開発を進めている、ロボットアームと実験に必要な封入環境を組み合わせた「きぼう」船内で運用する自動実験システムである。このシステムは、小動物飼育ミッションにおける操作を主テーマとし、発展の著しい遠隔化・自動化・自律化技術を活用することで、研究者や利用者が自ら操作できる効率的・効果的な宇宙実験・利用の機会提供を目指している。

2025年1月21日 当社ニュースリリース：

<https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/news3209137853238837334.html>

研究開発: エッジコンピューティング

エッジAIチップの開発

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」(NEDO公募事業)

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野への応用と実用化を目指す。

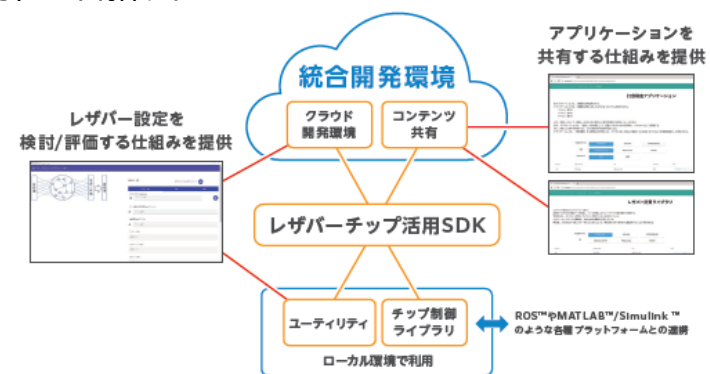
レザバーチップ活用SDKを開発

レザバーチップを利用したアプリケーションを開発するための様々なツールを開発。

- ・クラウド開発環境
- ・コンテンツ共有機能
- ・ユーティリティ
- ・チップ制御ライブラリ

2022年4月25日 当社ニュースリリース：

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220422526036/pdfFile.pdf



ロームのAIソリューション「Solist-AI™」のエコシステムパートナーに参加

「Solist-AI™」は、ローム株式会社がエッジコンピューティング分野に向けて提供するオンデバイスAIソリューションである。

当社は、現在研究開発中のリザバーコンピューティング(レザバーコンピューティング)を、ロームの協力のもと、「Solist-AI™」マイコンに実装した。

「Solist-AI™」マイコンはリザバーコンピューティングの実装に適したオンデバイスAIマイコンであり、当社のエッジAIビジネスを加速できると考え、エコシステムパートナーに参加。「Solist-AI™」マイコンや開発環境を用いてアプリケーションやプラットフォームソフトウェアを開発する。

※「Solist-AI™」は、ローム株式会社の商標または登録商標である。

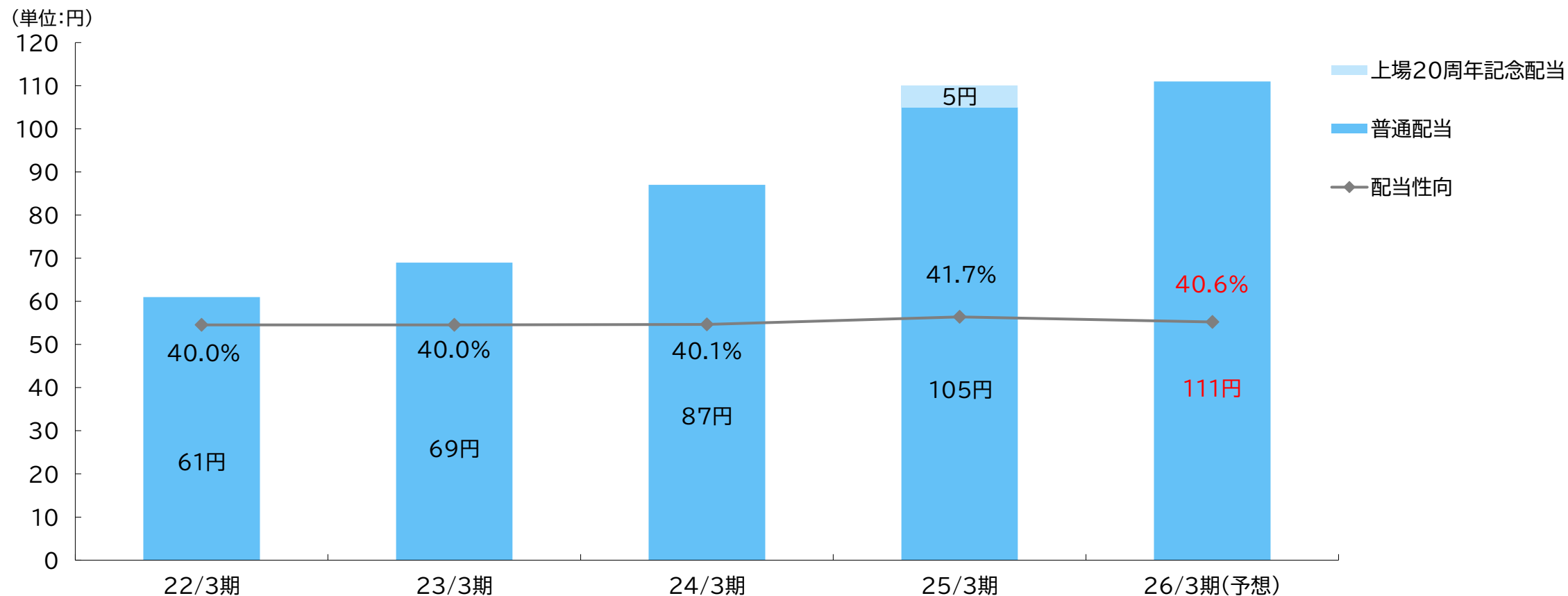
2025年3月19日 当社ニュースリリース：

https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20250318596448/pdfFile.pdf

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2026年3月期は、1株当たり111円の配当予想とする。



ご参考: ニュースリリース一覧(2025年2月~2025年5月)

2025年		
2月12日	<u>ロボット開発技術探求プロジェクト「SETAGAYA Eclipse」がロボット競技エンジニア選手権CoRE-1に挑戦</u>	3月10日 <u>第3回金融データ活用チャレンジで入賞</u>
2月13日	ラジオNIKKEI「ザ・マネー」に代表取締役社長 櫻井が出演	3月12日 <u>情報処理学会第198回ハイパフォーマンスコンピューティング・第14回量子ソフトウェア合同研究発表会にて量子コンピュータに関する大阪大学との共同研究成果について講演発表</u>
2月16日	STOCK VOICE「資産形成フェスタ2025」in 東証アローズOnlineにて企業IRセミナーを開催	3月13日 <u>「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定</u>
2月22日	ラジオNIKKEI & プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント」(広島)にて企業IRセミナーを開催	3月19日 <u>ロームのAIソリューション「Solist-AI(TM)」のエコシステムパートナーに参加</u>
2月25日	<u>ROBOCIPの「産業用ロボットの機能向上・導入容易化のための産学連携による基礎技術研究」の開発を支援</u>	3月24日 <u>【共同研究】量子コンピュータ・クラウドサービス向けの世界最大規模の基本ソフトウェア群をオープンソースとして公開・運用開始</u>
2月25日	<u>日本テクノセンター主催「レザバーコンピューティングの基礎とシステムへの適用ポイント」の講師を担当</u>	4月16日 <u>第6回「きぼう」ロボットプログラミング協議会(Kibo-RPC)に協賛</u>
2月26日	<u>世田谷区と「世田谷区民のITスキル向上のための包括協定」を締結</u>	5月12日 <u>「2025年度 世田谷ITカレッジ」開講</u>
2月26日	「CNET Japan Live 2025 イノベーションが導く課題解決」に代表取締役社長 櫻井が登壇	5月14日 <u>ロボット開発技術探求プロジェクト「SETAGAYA Eclipse」がロボット競技エンジニア選手権CoRE-1にて「革新的アイデア賞」を受賞</u>

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。